

令和6年度 第2回 史跡伊賀国庁跡保存整備事業指導委員会会議録

日 時：令和7年3月27日（木）13：30～14：50

場 所：府中地区市民センター会議室

出席者：委員4名（寺崎委員、小澤委員、穂積委員、田中委員）

事務局 川部事務局長、笠井課長、福島主幹、清山係員

オブザーバー 三重県教育委員会社会教育文化財保護課 水橋主幹

1. あいさつ

川部事務局長

2. 報告事項

（1）整備計画及び令和6年度事務局経過について

事務局：資料1・2で 全体計画及び経過報告について説明

《委員からの意見は特になし》

（2）令和6年度工事について

事務局：資料3・4で令和6年度整備工事内容について説明

《質疑応答・意見》

委 員：資料3について、掘立柱塀の柱間が不等間であるが、どのような根拠か。

事務局：発掘調査成果に基づいている。

委 員：了解した。

3. 協議事項

（1）令和7年度工事について

事務局：資料5・6で令和7年度整備工事内容について説明。

委 員：資料3と資料5で、東側の区画塀の一部が令和6年度施工と令和7年度施工で重複している。

事務局：資料5が正しい。資料3を修正する。

委 員：資料5について、既設の擬木を黒、令和7年度工事予定を赤とするなど、わかりやすく表現すること。

①地先境界縁石設置

事務局：地先境界縁石について、50mm凸とする案とフラットとする施工方法を説明し、事務局案としてフラットとする施工方法を提示

（舗装面は整地面より20～30mm高くする。経年により貼芝地が盛り上がり、舗装部分が低くなることもあるので、予め舗装部分を高くしておくことについて、補足説明）

委 員：縁石が高いと水が溜まりやすくなるというのは想像できる。

委 員：擬木丸太により建物跡の表示は出来ているため、無理に縁石を高くする必要はないのではないか。

《検討結果、フラットとする案を採用》

②平面舗装

事務局：素材は、真砂土舗装、アスファルト薄層カラー舗装、透水性脱色アスファルト舗装を提示し、それぞれメリット・デメリットを説明した上で、透水性脱色アスファルト舗装を事務局案として提示。

委 員：維持管理を考慮すれば、単価が高くても耐久性がある方がいい。事務局案が良いのでは。アスファルトの粒の大きさなどは指定できるのか。

事務局：工事部局に確認する。

委 員：史跡斎宮跡の整備の際には志摩市の企業に照会したように思う。サンプルを用いた透水性の実験も確認した。他所にも同様な企業があるかも知れない。

事務局：サンプルを取得可能であれば、次回会議で提示する。それが難しい場合には写真等で示す。

委 員：透水性脱色アスファルト舗装のデメリットに被膜の剥がれとあるが、補修可能なものか。

事務局：工事部局に確認する。上野城跡での施工例を見ると、歩行者の通行程度では剥がれは非常にゆるやか。

《検討結果、透水性脱色アスファルト舗装とする案を採用》

③区画溝

事務局：実施計画では防草シートを敷き玉砂利を置くことになっていたが、維持管理の観点から従来案に加え、砂利樹脂舗装又はコンクリート打設＋砂利敷の2案を提示した。事務局案としては、維持管理が容易なコンクリート打設＋砂利敷の施工を提案した。

委 員：防草シートは劣化するため、外見上見えないのであればコンクリート打設に賛同する。

委 員：事務局案に賛同するが、本日ご欠席の高橋委員の専門なので確認すること。

委 員：コンクリート打設の厚さは何ミリか。また、玉砂利は固定しないということではないか。

事務局：コンクリートの厚さは50mmを考えている。玉砂利は固定しない。

委 員：石が大きいと隙間に草や土が入り込みやすいが、下がコンクリートなら草引きしやすいと思われる。除草剤の使用は控えたいだろうため、熱湯をかけることでも対処可能。一方、ある程度の大きさの玉砂利は子供が投げて遊ぶ恐れがあるので、それよりも小さいサイズとする。

《検討結果、コンクリート打設＋砂利敷の施工をベースに考えつつ、高橋委

員の意見を確認する。玉砂利の大きさは要検討とする。》

④説明板・看板

事務局：実施設計にある2基の看板に追加して、周辺地形を説明する説明板の設置について提案した。

委員：周辺地形説明板のサイズのイメージはどのようなものか。

事務局：1.8m×1.8m程度をイメージ。

委員：表示する範囲は新家駅が西端になるくらいと思う。

事務局：表示内容に補足する。主要な古墳や神社等に絞るつもりで、あまり要素を詰め込み過ぎないつもり。テキストも遺跡名くらいで、説明は2基の説明板で行う考え。国庁跡に立って見渡すとすると、南限は伊賀国分寺跡くらいかと考えている。

委員：フラットなものか。

事務局：フラットでもいいし、立体的なものでもありと考えている。

委員：単色ではさみしいので色彩はあってよい。しかし、経年による退色もあるので、具体的な検討が必要である。

《説明板・看板については施工まで猶予があるため、改めて議論することを確認》

(2) 現場視察・指導

委員：報告事項で指摘のあった掘立柱塀の間隔が不等間であることの説明をしてはどうか。

委員：周辺地形説明板は、駐車場部分の南端あたりに設置するのがいいのではないか。

委員：擬木丸太の直径を検出遺構に基づき、遺構別の直径を違えたことで、建物ごとの違いが可視化されてよい感じである。

委員：区画溝を越えて南門に入る部分には木橋を想定してはどうか。木製の木橋を設置するなど。

(3) その他

《特になし》

4. その他（事務連絡）

事務局：現地でご指導いただいたことを整理し、明日は高橋委員に現地指導をいただく。次回会議では看板等について検討したい。

これまで活用のための事業として毎年国庁に関連した文化財ウォークや文化祭での考古資料展示、講演会などを実施しており、今後も継続していくとともに委員の先生方にご協力をお願いすることもあるがその際はよろしくお願い

したい。また。整備後の維持管理について地元住民と協議しており、次回の会議で検討いただきたい。なお、伊賀国庁跡の保存整備事業は、議会の予算委員会で質問が出るなど市内でも関心が高い。

事務局：次回の会議は秋ごろと考えているが、それまでに工事着手したいと考えている。
工事内容については事前にメール等で共有し、調整を行う。

委員：今回の会議では、令和7年度施工の内容について基本的に事務局案を承認することとなった。明日、高橋委員から意見があれば共有いただきたい。

5. 閉会の挨拶

川部局長

閉会（14時50分）